
Harvard Conference 2018 報告書

HCAP東京大学運営委員会12期

2018年2月



目次

ハーバードカンファレンスとは	3
ハーバードカンファレンス2018概要	3
学術企画	4
文化企画	6
交流企画	8
おわりに	10



ハーバードカンファレンスとは

ハーバードカンファレンスとは、ハーバード大学にあるHarvard College in Asia Program（以下HCAP）の本部が企画運営を行う約一週間にわたる国際交流プログラムのことである。学術企画・文化企画・交流企画の3種類で構成されるカンファレンスを通して、アジア9か国の学生がハーバード大学の生徒と相互理解を深める。

ハーバードカンファレンス2018概要

- 主催 : HCAP Harvard 本部
開催地 : Harvard University
日程 : 2018年1月14日(土)～2018年1月22日(日)
テーマ : Redefining Leadership: Initiative and Influence in the Modern World
参加者 : ・ハーバード大学 学部生 95名

以下、学部生各8名程度

- ・ Chulalongkorn University (タイ)
- ・ American University in Dubai (アラブ首長国連邦)
- ・ University of Hong Kong (香港)
- ・ Boğaziçi University (トルコ)
- ・ St.Xavier's College (インド)
- ・ Ewha Womans University (韓国)
- ・ Singapore Management University (シンガポール)
- ・ National Taiwan University (台湾)
- ・ University of Tokyo 【東京大学】 (日本)

以上 計167名



学術企画

学術企画総括

学術企画では、ハーバードカンファレンス全体のテーマである“Redefining Leadership: Initiative and Influence in the Modern World”に基づいて外部スピーカーによるレクチャーやディスカッションが行われた。また、最終日には各国の使節団から一つずつ自らのIdeas worth spreading について語るTED Talkも行われた。学術企画は基本的に午前中に行われ、眠気と闘いながらも、参加者が自らの国の事情などとも絡めながら抱く問題意識について触れる貴重な経験となった。また、海外の大学生の「学術」に対する姿勢の違いも随所に感じられ、非常に興味深かった。

レクチャーとディスカッション

主にハーバードにゆかりがある様々な立場のスピーカーが招待され、生徒を相手にレクチャーを行った。テーマがリーダーシップに関わるものであっただけに内容は多岐にわたるものとなり、起業家、核軍縮に向けて長く政府の内外で活動してきた人、LGBTQの学生支援団体を立ち上げた人、イスラム教の宗教カウンセラー、米軍陸軍中佐がそれぞれの立場からリーダー像を語った。どれも示唆に富む講義で、しばしばランチタイムでも参加者が感想を共有しあったりしていた。

ハーバードカンファレンスで東大生が毎年感じることではあるが、聴衆を巻き込んだ講義や、時間ギリギリまで質問し続ける生徒の姿はやはり日本では見られない新鮮なものであった。また、安全保障に関する話で日本に触れたり、日米学生会議で広島を訪問したことが人生の転機になったと語るスピーカーもいたため、世界の中での日本の立ち位置、あるいは東京カンファレンスの立ち位置（東京カンファレンス2018では広島を訪問する予定である）についても考えさせられた。

レクチャーの後は1時間ほど時間をとって、レクチャーの内容に関連するディスカッションを行なった。各国の参加者が自らの出身地についての問題を引き合いに出しながら鋭い現状分析を行う姿、理路整然としたわかりやすい発言などは印象的で、学ぶことも多かった。HCAP Tokyoからの参加者の中には英語による議論になかなかついていけず苦勞したものも多かったが、皆多くの学びを得ることができた。



TED Talk

世界的に有名なプレゼンイベントTEDを模して行われる最後の学術企画であるTED Talkでは各国の代表がプレゼンを行った。

他国のプレゼンは、インド映画について、韓国の食文化についての文化についてのもの、香港やドバイのように多くの文化が入り混じる国の事情についてのもの、あるいは台湾やシンガポールのように発表者個人の考えについてのものなど、様々であった。ジョークを織り交ぜながら文化をコミカルに語る人、非常に迫力あるプレゼンで聴衆から大きな拍手を受ける人などプレゼンの見せ方にも工夫が凝らされており、皆で楽しんで聞くことができた。

HCAP Tokyoからは、日本の職人文化の現在についてのプレゼンを行った。工夫を凝らしたスライドや、発表者の家族事情も交えたストーリーが印象に残ったようで、終わった後もプレゼンの内容についての会話が盛り上がっていた。

最終日の企画だったこともあり、皆がお互いの健闘を讃えあうような形でTED Talkは幕を閉じた。



文化企画

文化企画総括

カンファレンス中における一連の文化企画は、観光企画と文化交流企画の二つに大別できた。前者ではキャンパス内のツアーに加えて、キャンパスのあるケンブリッジ市や隣接するボストン市の観光地や歴史的史蹟を巡る行程が組みられ、後者には料理企画などが含まれた。多様なバックグラウンドを持った大学生が集うカンファレンスなだけあって、文化的な側面から互いの相違や共通点を探り理解を深める狙いを持って設計されているのが窺えた。



ハーバードキャンパスツアー

米国随一の歴史を誇るキャンパス内のツアーも随時生まれ、ハーバード生のガイドの下、普段からそこで暮らすからこそ知り得る話を含む多くの知識を得ることができた。寮もカンファレンス中にいくつか訪問したが、寮生活がハーバード生の基底にあること、そして大学側もそれを前提に様々な教育設計を行っているのが肌で感じられる機会になった。大学内の自然史博物館では、本物と見紛うような17世紀のガラス製植物標本のコレクションなどを見学し、歴史的な文化資本の蓄積の一端をかみしめることができた。

ボストンツアー

講義やハーバードキャンパスツアー、交流企画など以外の時間には、三月に東京へ来てくれるハーバード生メンバーと共にボストン市内の観光へと繰り出した。行き先は、ボストンの歴史や文化が実感させられる主要観光スポットが多かった。チャイナタウンでアメリカ社会におけるアジアコミュニティを意識したり、折しも村上隆展の開かれていたボストン美術館では各国の参加者と日本人芸術家の作品について感想や考えを交換したりすることは、日本人同士の会話が主な日常生活では数少ない、まさに文化交流企画と呼べるものであったように思う。他にも、ちょうど訪問期間にあったキング牧師記念日(MLK Day of Service)に合わせて、ハーバード生と地域コミュニティセンターを訪れ、そこに集まっていた多くの地元住民と協力して毛布のデコレーション等を行い、奉仕活動が社会に根ざしている様を目にすることができた。



アイアンシェフ

この企画では、20ドルの予算と指定された食材を使うという条件下で、各国ならではの料理を制限時間の2時間で振る舞うことになった。今年の指定食材は馬鈴薯。我々は日本の冬の風物詩・鍋料理をつくることにした。トマト鍋をつくることに決めて臨んだのだが、肝心の鍋がない。そういった細々としたトラブルを乗り越えつつ仕上がった鍋の味と温もりは、クリームチャウダーで知られるボストンで暮らすハーバード生にも受け入れてもらえたようだった。盛り付けに凝った国もあり準備不足は悔やまれたが、料理一つをとっていてもその過程や味、盛り付け方に文化的な個性が垣間見える機会であった。

交流企画

交流企画総括

交流企画においては、自分の大学の人と自分の大学に来るハーバード生とチームを組んでお菓子でお菓子のタワーを造るジンジャーブレッドハウス、カンファレンスの参加者が誰でも出られるタレントショー、今年の最も素敵男子を選出するMr. HCAPなどの多くの企画があった。学術企画と文化企画でも、ハーバード生とアジア諸国の大学生がある程度話し、仲良くできるが、交流企画はよりリアルな自分が表現できるゆえに、国籍問わず我々の間の距離が明らかに縮んだ。



ジンジャーブレッドハウス

ジンジャーブレッドハウス企画では、各国のデレゲーツが3月に自分の国を訪問するハーバード生とチームを組み、1時間半でお菓子で自分なりにタワーを造るとのことであった。短い時間制限に圧迫され、チームワークがこの企画の目標となっているのであろう。今年の東京デレゲーツのチームが築いたジンジャーブレッドハウスのコンセプトは昔日本を代表する東京タワー。短時間で済ませるために、基本構造の部分をクラッカーとクリームチーズで作る人もおり、それらをまとめてタワーの形に並べる人もいた。結果として、東京チームは全チーム中最も高いジンジャーブレッドハウスというタイトルを得ることができた。

タレントショー

タレントショーは毎年HCAPカンファレンスにて開催される企画である。企画名の通り、タレントでも文化的なダンスや習慣などでも自由に参加して演じるものであるが、完全にカンファレンスに参加する国々が表現できるように、各国から最低1つのショーとのことになっている。各国の大学生は、ハーバード生によるマジックショーとイスタンブール大学生によるトルコの結婚式の習慣を見せる模擬結婚式をはじめ、非常に多様で面白いショーを用意していた。日本チームは日本文化を象徴するような踊りであるソーラン節を演じた。

Mr. HCAP

前年度のカンファレンスにも開催されたMr. HCAPはカンファレンス参加者の中で最も素敵な男子を選出する企画で、出場したい人は当日の朝までに応募し、ジャッジ達も参加者とカンファレンス主催者の中からの応募で集められるという企画であった。この交流企画そのものは参加者同士が直接交流するのではないが、カンファレンス中にそれまで話したことがない人が出場し、面白いパフォーマンスをすることにより、「あの人は実際こんなに面白いんだ」などの印象を得ることで、HCAPカンファレンスの参加者達との距離がまた縮んだと感じられる機会であった。



おわりに

日本に生まれたという特殊性。東京大学に通っているという特殊性。日本国内で、とりわけ国際交流を推進するようなコミュニティでは浴びるように聞く話です。日本人、東大生の常識は海外では通用しない、日本人、東大生はもっと海外に出て、常識をアップデートするべきだと言説が、社会のいたるところに流布しています。

実際に、到着後すぐの段階では日米間の違いが多く目につきました。大学と完全に一体化した学生の生活圏、統一感のある赤煉瓦の街並み、いわゆるアメリカンサイズで消費され続ける食品や消耗品を所狭しと並べるスーパーなどです。こういった、日本とアメリカとの違いに当初は圧倒されそうになったことは事実です。

しかし、アメリカやアジアの国々から集まった学生と長い時間寝食を共にする中で見出したのは、結局誰もが等しく人間であるという当然と言われればそれまでの、しかしそれでもなお重い意味を持つ気づきでした。国籍、人種、性別が違ったとしても、あくまで個人は個人。私という人間は、どこの世界、どこの国に行っても私以外の何物でもなく、私自身の立ち居振る舞いによって、またそれによってのみ私がどんな人間か判断されるという事実。金子みすゞさんの詩の「みんな違って、みんないい」という一節を、初めて現実味をもって受け入れられた気がします。そして、同じ人間としてどういう社会・未来を描き、それを実現するために何をすべきなのかを改めて考えさせられる機会となりました。

以上のように、本年もHCAP東京大学運営委員会のメンバーがハーバードカンファレンスという素晴らしい交流、気づきの場に参加することができました。これもひとえに日頃からご理解、ご協力を賜っております個人様・団体様のおかげと考えております。この場をお借りして、弊団体メンバー一同、心より感謝を申し上げます。

ハーバードカンファレンスを終えた弊団体の本年度の活動は、いよいよ3月の東京カンファレンスを残すのみとなりました。5月の発足以来8ヶ月程ともに活動してきたメンバーとの集大成として、東京カンファレンスを成功させるべく邁進してまいります。今後とも、ご支援・ご協力をいただけますと至極幸いに存じます。

HCAP東京大学運営委員会12期代表 寺田彩人

